広報まき
1969年8月10日
第81号
発行　新潟県巻町役場
電話 代表(局)3131
編集　商工観光課

住民基本台帳人口
（昭和44年7月31日現在）
総人口　27,550人
男　13,304人　女　14,246人
世帯数　6,025

県道、町道の舗装進む

本年の道路整備

巻中脇に 郡内初の歩道橋

"モーレツ"な交通戦争に備える

人間生活をささえたり、産業の大動脈ともいわれる道路。町では、道路の整備を重点施策の一つとして年次計画で取り組んでいますが、本年も国、県の力も借り町内を走る県道、町道を整備促進します。

なお、国道関係は一一六号線と同バイパスはすでにりっぱな舗装道路になっています。また、ますます"モーレツ"さを加えている交通戦争に対処するため、郡内で最初の歩道橋が出来るほか、歩道も三か所に設置され交通安全施設も充実されます。

町道の舗装

延べ九百八十七メートル

七月二十九日、本年度町道の舗装工事のトップを切って財務事務所ー浜松屋薬局間で始まりました。

ことしの舗装総延長は九百八十七メートルで、次の路線区間で行ないます。なお、全工事の完成は十月末の予定です。

▽財務事務所ー浜松屋薬局、延長六十八メートル、幅員五・二メートル。

▽高校通り蛍雪橋から延長二百七十メートル、幅員五メートル。

▽駅前東映線延長八十メートル、幅員六メートル。

▽東仲江通り、役場脇ー館之城延長四百六十二メートル、幅員五メートル。

国、県補助事業

国庫、県費補助事業として、次の区間で道路の改良、舗装が行なわれます。

国庫事業

間手橋ー堀山間舗装

図特殊改良一種（曲折路などの直し）

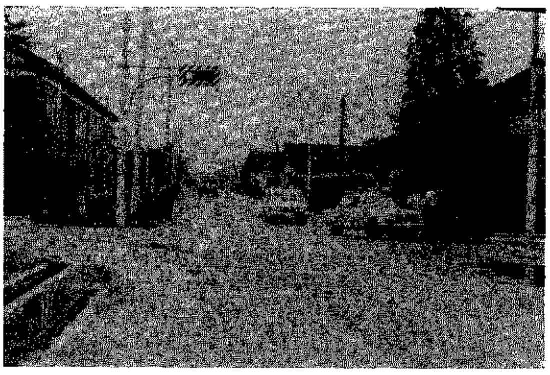
▽巻ー白根線
河井ー馬堀地内延長五十二メートル、幅員五・五メートル。

▽間瀬ー新潟線
角田浜地内延長四百メートル、幅員六メートル。

▽越後曽根ー越前浜線
松野尾地内延長三百メートル、幅員五・五メートル。

図特殊改良四種（舗装）

▽浦浜ー巻線
堀山地内延長八百メートル、幅員五・五メートル。



歩道橋が設置される巻中学校附近。完成が待ち遠しい。

▽西川ー四ッ郷屋線
四ッ郷屋地内延長五百五十メートル、幅員五メートル。

県費補助事業

各路線で舗装伸びる

図道路改良

▽加茂ー巻線
漆山地内百メートル、幅員五・五メートル。

▽浦浜ー巻線
白山地内延長百メートル、幅員五・五メートル。

図舗装

▽越後曽根（T）ー越前浜線
越前浜地内延長百五十メートル、幅員四メートル〜五メートル。

▽燕ー巻線
馬堀地内延長百二十メートル、幅員四メートル。

▽越後曽根（T）ー越前浜線
松野尾地内延長百十メートル、幅員三・七メートル〜五メートル。

▽浦浜ー巻線
福井地内延長百十メートル、幅員五・五メートル。

▽間瀬ー新潟線
四ッ郷屋地内延長百五十メートル、幅員四メートル。

▽加茂ー巻線
漆山地内延長二百三十メートル、幅員五メートル。

魔の国道に歩道橋

国道一一六号線バイパスの巻農高脇ー巻中学校脇に西蒲原郡内で最初の歩道橋（長さ三十八メートル幅員一・五メートル）が今秋誕生する予定です。

最近交通事故が激増、いちやく不名誉の路線別交通事故数のトップにおどり出た同国道を車と対面しないで横断することで、同地点の人対車の事故が完全に防げます。

今回、歩道橋が設置される付近は県立巻農高、町立巻中学校、町立病院、巻税務署、巻土木事務所、巻警察署など学校、官公庁があり人の交通量も相当にあります。

通学路を重点的

歩道も三か所設置

児童、生徒を交通事故から守るため、通学道路を重点的に三か所にわたり車道と区別した歩道が設置されます。

▽町立巻小学校前の西浦通り（財務事務所から妙光寺まで）四百九十メートル。幅員一・五メートル

▽町立巻中学校脇、国道一一六号線バイパスに沿って百十六メートル、幅員一・五メートル。

▽高校通り蛍雪橋から県立巻高校前の百十メートル、幅員一・五メートル。それと西川にかかる蛍雪橋と平行して歩道橋がかけられます。

近郷と町の親善将棋大会

腕だめしにどうぞ

町将棋会、公民館の共催で近郷六か町村と巻町の対抗親善将棋大会が八月十七日午前九時から公民館大ホールで開かれます。

大会は、町民で将棋のできる人ならどなたでも参加できます。参加費は二百円（中食代を含む）。希望者は当日受け付けますので、申し込んでください。

なお、全員に参加賞が出るほか優勝者には町長杯、公民館長杯などが用意されています。

学級・講座 今月のご案内

三歳児母親学級
とき　八月二十四日 午後二時
ところ　町立巻小学校

青年講座
とき　八月二十九日 午後八時三十分
ところ　巻町公民館

主婦が商店の一日監視

販売の実態を勉強

一日監視員はきびしい目で店をチェックして回った

私たちの目の前につぎつぎと新しい商品が出まわり、生活が豊かにそして内容もデラックスとなり便利になりました。消費にあたって私たちは、とかく価格にとらわれがちのようですが、その商品が安全で、良質、しかも正しく販売されているかどうかを知ることも大切なわけです。消費者が実際に自分の目を通して生産、販売の実態を知り、これからの消費生活の向上に役立たせると同時に、行政の面でいろいろ施策の資料を得ようと、七月二十九日県企画部の計画によって、町内六人の主婦が一日監視員となって町内をパトロールしました。

熱心にパトロール

一日監視は六人の主婦たちが、それぞれ班を編成して、販売店の計量器が完全にその機能を果しているか、計量器の位置、建値の明示、家庭用品の品質明示の状況、品質表示の義務づけに対する認識の程度、消費者に対する商品の説明能力など、食品業者についても店舗や施設の衛生管理をはじめ、容器や食品の処理状況などについて、きびしい目でマーケットや商店の売り場をチェック、業者たちがびっくりするほどの勉強ぶりを発揮しました。「家庭用品について品質の表示が義務づけられているのに、少しも守られていない」という不満の声や、「食品業者の衛生管理の不足に驚いた。行政指導の強化と消費者も、もっと苦情や要望に訴え、それでも守られなかったら購売態度で訴えたら」と真剣な表情もみられました。

懇談会で注文続出

午後四時町内パトロールを終えた監視員は県職員と懇談会を開き問題点を整理して散会しました。

懇談会で問題となった主な点は計量器の指針が静止しないうちに計量が終る。容器ぐるみ（風袋ぐるみ）の計量で物が売られていない。建値の表示が守られていない。計量器のくるい水平の直し方やその装置のあることを知らない業者が多い。食品業者はもっと衛生管理に力を入れられたい。食品衛生協会で自主監視を要望する。家庭用品品質表示について業者の勉強不足が目立つ、呉服、メリヤス、糸、既製服はその点よかったと思う。電気製品は表示はあるがもっと見やすいところに表示すべきだ、品質表示について消費者が購売態度で示めしたら、商工会の指導の中で品質表示についてもっと力を入れるべきだ、等々消費者と販売店あるいは生産者との信頼関係の回復を一日監視員は強く訴えていました。

県青年大会

巻町会場は

陸上競技　美術工芸展

ー八月二十三、四日ー

平素勤労に従事している県下の青年が一堂に会合し、友好親善を図ると共に、体育、芸能文化などを通して日頃の技を競い、健全な郷土社会の建設に寄与しようという新潟県青年大会（全国青年大会県予選）は、本郡六か町村を会場に、八月二十三、二十四日二日間開催されます。

巻町では、大会の花陸上競技が二十四日午前八時三十分から巻中学校グランドで、美術工芸展は二十三、二十四日巻町公民館で開催されます。

その他郡内の種目別会場は次のとおりです。

・音楽郷土芸能（弥彦体育館）
・演劇（弥彦体育館）
・意見発表（弥彦体育館）
・すもう（弥彦神社すもう場）
・柔道（味方中学校体育館）
・剣道（分水小学校）
・卓球（岩室中学校体育館）
・バレーボール（竹園高体育館、曽郷中体育館、巻高体育館）

なお、当町から、西蒲原郡代表として、次の方が出場されますので、ご声援ください。

◇男子陸上百メートル、走幅跳八百メートルリレー　阿部仁（十一区）
◇男子陸上千六百メートルリレー　川島幸雄（三区）
◇女子陸上三種競技　岩崎百合子（松野尾）
◇女子四百メートルリレー　樋浦雪江（鎧潟場）
◇バレーボール　石田清一（一区）土田正朗（七区）斉藤文弥（福井）寺沢明（鷲ノ木）星野照男（赤さび）高井誠一（九区）西脇直行（赤さび）金子俊明（七区）幡本進（四区）水野憲一（十三区）五十嵐正春（一区）
◇すもう　内藤俊男（越前浜）桑原呂一（稲島）

心配ごと・交通事故相談所のご利用を

心配ごと、交通事故の相談所は毎月十八日午前十時から午後三時まで、巻町公民館で開かれております。相談員は、民生委員、有識者の方々で、ていねいに指導助言をしてくださいます。人々には与えるしあわせと、受けるしあわせがあります。心配ごと相談は、悩みごとを解決することによって人々にしあわせを与えるものです。お気がるにおいでください。

事業所の統計まとまる

ふえた商業、製造業

従業者総数は八千五百人

事業所統計調査結果がこのほど総務課でまとめられましたのでお知らせします。

この調査は事務所、工場、店舗、飲食店、学校、病院など経済的、文化的事業活動を営んでいるすべての事業所について、昭和四十四年七月一日現在で全国一斉に調査されました。国の社会経済の実態をは握し、行財政上ならびに各種統計調査の重要な基礎資料となります。（農林水産業については別に調査されます。）そこで集計された数字の上から巻町における事業所の姿をとらえてみました。

事業所総数は千四百二十四で昭和四十一年七月一日現在で実施された前回調査時に比べて百十五事業所（八・八%）の増加となっています。このうち三年間で特に増加した事業所は商業（四十四）、製造業（三十二）、建設業（十六）となっています。

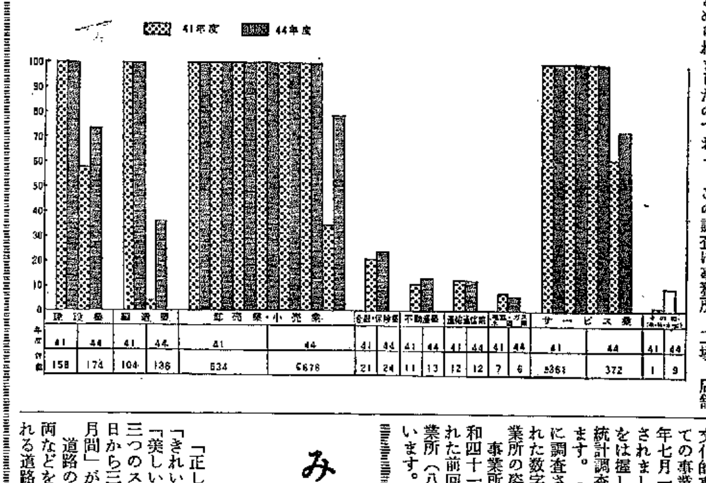
また、従業者総数の面から見ますと八千四百八十九人で前回よりも千八百十六人も増加しています。主なものは建設業（七百四十七人）、製造業（五百六十九人）商業（百九十四人）となっています。

すべての産業の発展には道路整備が重要な要因となっていますが巻町も舗装が着々と進み、それに伴い工場、商店が増加し、また、学校改築、老人いこいの家、一般住宅などの建築ブームにより建設業の大幅な伸びが考えられます。

このような結果を上のグラフにあらわしてみると巻町は各方面において着実に伸展していることがわかります。

この事業所統計調査にご協力くださいました町民の皆様と調査員の皆様に感謝申しあげるとともに今後も統計調査に、なお一層のご協力をお願いいたします。

事業所数の41年と44年の比較表



みんなで正しく使おう

八月は「道路を守る月間」

「正しく使おうみんなの道路」「きれいな道路に正しいマナー」「美しい通路はぼくらのほこり」三つのスローガンを掲げて八月一日から三十一日まで「道路を守る月間」が実施されています。

道路の不正使用や道路駐停車車両などをなくして通れる道路、走れる道路としたいものです。

道路環境の整備と道路を愛する考え方をおしすすめ、この月間の目的達成につとめましょう。

八月十五日終戦の日

戦没者に一分間の黙とうを

八月十五日は終戦の日。祖国を守るため戦没者を出した遺族には忘れることのできない悲しい日です。

中央では、これらの犠牲者に追悼の誠を捧げるため日本武道館で遺族の代表を招いて全国戦没者追悼式が行なわれます。

この式典に合わせて全国の官庁事業所などでは"半旗"をかかげ正午には全国民が職場や家庭において一分間の黙とうを捧げることになっています。

町民のみなさんも町出身八百有余の戦没者を偲んで正午のサイレン吹鳴と同時に黙とうを捧げ、ごめいふくを祈りましょう。

護国神社奉納金

目標額三十一万円

ただいま区長さんの手を通して各家庭のみなさんに新潟県護国神社の奉納金をお願いしておりますが、趣旨をご理解のうえ、ご協力をお願いします。

なお、町の奉納金目標額は三十一万八千百円になっていますので一世帯百円見当でお願いしております。

八月八日現在集められた奉納金は十六万二千百円です。

愛の募金にご協力を

非行少年救おう

"あやまちをした人の更生にあなたのあたたかい手を"

ことしも「社会を明るくする」愛の義援金をお願いすることになりました。

近日中に区長さんを通じて愛の協力募金袋を各家庭に配付しますので、なにとぞ応分のご寄付をお願いいたします。

遊歩道路を交通規制

小浜～角田岬

九月以降は通行禁止

観光道路浦浜線（角田岬～小浜間）の開設工事が八月一日から開始されました。

この工事は、来年の三月末日まで継続して行なわれます。

このため、工事期間中は危険ですので海岸遊歩道は次のように交通規制を行ないますからご協力ください。

◆交通規制実施区間

角田岬～小浜までの海岸遊歩道路

◆交通規制期間

昭和四十四年八月一日～八月三十一日まで。

この期間は角田岬遊歩道入口および小浜遊歩道入口に保安要員を置いて工事の状況によって通行を行ないます。

◆交通禁止期間

昭和四十四年九月一日～昭和四十五年三月三十一日まで。

この期間は、海岸遊歩道路を通行禁止にします。

特にハッパをかけての工事が多いため、角田岬トンネル入口、小浜トンネルの五十メートル先、小浜トンネル入口をサクでふさぎ歩道へ入れないようにしますので釣りに行かれる方は、危険ですから絶対に入らないようにしてください。

また、九月以降角田山へ登山される方は、小浜コースは利用できませんので、灯台コースをご利用ください。

民謡"熱い"ブーム

各分館で練習さかん

夏の風物といわれる"ゆかた姿"の民謡盆踊り大会が少なくなってきた昨今、逆に民謡の良さが再認識されているようです。

民謡研究グループ巻耀峰会の「全国民謡唄まつり」「地区老人慰問大会」「やかたおけさ」のレコーディングなどの影響を受けてか部落でも民謡が"熱い"ブームを呼んでいます。

公民館分館活動による松野尾、中郷屋、仁箇部落がそれぞれで、巻耀峰会員を講師にむかえ婦人会、若妻学級が主体となって一般希望者をまじえどの会場でも男女大ぜいが参加し、みんな一生懸命練習にはげんでいます。

練習内容は唄が主で、希望によっては踊りもやっています。巻耀峰会事務局はほかの部落からも講師を望まれうれしい悲鳴をあげています。なお、次により練習を予定していますので近くの方で希望者はおおいに参加してください。

松野尾公民館第一、第三水曜日

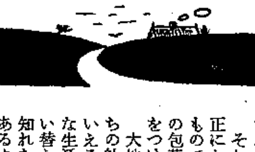
中郷屋公民館第二、第四金曜日

仁箇公民館第一、第二、第四土曜日。それぞれ夜八時から十時頃まで練習します。

農業の道しるべ

これから作る農村文化

専任技師　西村欣策



踏まれても蹴られても立ち上る生活力のたくましさを、雑草のようだ、という。このたくましい雑草と戦って来たのが農業であり、農村人であった。

それで、農村人の生活力は、正にたとえようがないほど強いものである。この強さは、無限の包蔵といわれる大地の上に足をつけているからである。

大地から足を離している人たちの社会は、根のない生活ともいえる。社会のどこかで、適当な生活の場を求めて過ごす、言い替えれば、今日、明日、とも知れない生活様式という状態であるようだ。

そこで、農村のよさを、ここであげつらうこともないが、何百年もそこに住みついて、農村特有の落ちついた生活を続けるという境涯は、他では見られない。そこに雨が降っても、風が吹いても、生活の「リズム」は高く鳴り、強く響く。

都会では、退屈をまぎらわすに事を欠いて、人間の神経をゆさぶる場所を求めて流れ出す、その生活には、案外不健全なものが多く、最近の慰楽は、ともすると、疲労と困ぱいしかもたらしてくれない場合が多い、これが、都会の文化というものであろう。

農村の中にいて、農村のよさをさとる人は少ないようだが、「農村文化」という言葉は、農村人でなければ感じられないし、農村以外の人が作ってくれようとは思わない。

金と物という、荒い肌で、「ギスギス」と、行き過ぎた競争だけを繰り返している都会人のあわれさを思うと、農村にはまだ、よい所がたくさん残っていて、これから、育てなければならないものがたくさんある。

農村人が、その強い生活力を背景に、立派な農村の文化を育てることが、大事になったと、このところ「ヒシヒシ」と感じられて来る。

♂う□ぶ□ご□え♀

（七月一日以降届け出）

赤ちゃんの名まえ	生まれた日	保護者名	住所
白崎陸之	6・17	惣三	稲島
西方俊也	6・20	明	十三区
石崎朋子	6・20	公教	十区
棚辺豊子	6・21	友三郎	東六区
大沢一樹	6・21	敏	竹野町
小川陽子	6・23	吉幸	越前浜
大越正男	6・26	嘉忠	一区
前山新一	6・27	清也	三区
河野亮	6・29	健吾	八区
真島光輝	6・26	俊衛	十三区
若月淑恵	6・30	三郎	稲島
堂谷佳代	7・2	英策	八区
鈴木大輔	7・5	大治郎	東六区
篠沢幸栄	7・5	健	越前浜
小林功	7・6	十四三	十三区
藤間尚人	7・9	與策	五の丁
村井敬	7・8	又男	四区
本田一精	7・10	清雄	四区
酒井考和	7・11	昇蔵	八の丁
池田和正	7・11	忠二	十三区
頓所勝栄	7・12	功	一区
佐藤健司	7・14	秀夫	東町
山木直美	7・14	孝雄	仁箇
本間丈晴	7・15	征志	堀山団
山下由明	7・16	英雄	越前浜
川島昌子	7・16	教二	東六区
細山善史	7・16	貞男	一区
保倉清美	7・18	優	四区
小野敬子	7・20	直	赤さび

○おくやみ●

（七月一日以降届け出）

なまえ	年齢	なくなった日	住所
吉川甲子二	44	6・27	七区
田辺ムメ	76	7・2	安尻
佐藤佐藤治	76	7・5	伏部
高橋重次郎	80	7・9	東六区
松本愿司	18	7・13	松郷屋
遠藤六郎左エ門	83	7・15	五ケ浜
白崎ミト	51	7・16	角田浜
野村ヨリ	90	7・19	九区
長谷川佐多郎	29	7・24	馬堀
桑原末吉	64	7・26	赤さび

―身障者旅行記―

障害を乗り越え日光路へ

巻町身障者福祉協会　会長　田中高次

世は正にレジャー時代。観光ブームは野に山に海に満ち溢れている。しかしながら私たちのようにからだのどこかに障害のある者は健康な人たちの仲間入りができずこの楽しいブームから取り残されるものがたくさんいる。

県身体障害者団体連合会では、めぐまれない人々に社会的視野を広め、会員相互の親睦と組織の確立をはかるために観光旅行を計画した。巻町身体障害者福祉協会でも進んで、これに協力参加をしたのである。

町から五十五人が参加

七月六日朝七時、巻駅前を観光バスで出発。町からの参加者は男女合わせて五十五人。肢体不自由者あり、難聴者あり、言語障害者あり、視力障害者あり、重症者には付き添えも参加。

日ごろとかく引っ込み勝ちな障害者もきょうこそは明るく、車中は笑いの渦。保育園の遠足以上のはしゃぎ方である。

中禅寺湖と華厳ノ滝

金精峠を下ると中禅寺湖畔に出る。車を下りて華厳ノ滝を見学する。松葉づえをつく下肢切断者、付添者に手を引かれる盲人。みんな真剣である。地下百メートルの滝つぼをエレベーターで下る。あいにくつゆ空で霧がかかり、滝の全容はながめられなかったが、壮大さは日本一のかんろくは十分味わうことができた。

鬼怒川温泉で楽しい夢結ぶ

今回の旅行団は総勢三百七十人鬼怒川温泉の二つのデラックスホテルに分宿。町五十五人の一行は二葉館の五階を独占。ここで一日の汗と疲れを落とし、心の洗濯までしようというのである。

総大理石の大浴場、大広間での大宴会、特に地元有志による郷土民謡「日光和楽踊り」、会員のかくし芸など荷物にならぬ楽しい思い出のみやげがいっぱい。

帰りは全く往路と同じコース。行きに見た数々の景勝の地を再認識しながら楽しい二日間の思い出を語り合い、一人の落伍者、病人もなく、ぶじ帰りました。

おことわり

本号は四ページ発行の予定でしたが、原稿のつごうで二ページ発行に変更しましたので、ご了承願います。なお、次号は四ページで発行の予定です。

また、広報まきに対してご意見ご要望がございましたら、商工観光課広報係あておよせください。町民のみなさんといっしょに広報紙づくりをしたいと思います。